

春日神社石燈籠



春日燈籠のおもかげを色濃く伝えた鎌倉時代につくられた燈籠です。国の重要文化財です。

〔春日五丁目〕

茨木遺跡



茨木小学校付近一帯には、かつて茨木城があったと言われ、平成18年(2006年)度の発掘調査で、障子などの建具とともに立派な箆欄間が出土しました。

〔本町〕

農聖小西篤好碑



篤好の30余年の研究結果が著された『農業余話』は国学者平田篤胤の校訂を受けて、出版されました。

〔大字佐保〕

茨木市の史跡紹介

茨木市の史跡紹介

【太田茶臼山古墳(継体天皇陵)】

全長226メートル、前方部幅147メートル、前方部長117メートル、後円部径138メートル、最大幅30メートル程の濠をもった三島地域最大の前方後円墳です。

〔太田三丁目〕

【茨木市の史跡紹介】

蓮花寺

行基が、夜、池に不思議な光が発するのを見て寺を建てたといわれています。木造地藏菩薩立像(写真)、木造十一面観音立像は府指定文化財です。

〔天王二丁目〕



天正二年銘磨崖仏



幅6メートルの自然石に合掌した立像が28体と、天正2年(1574年)の銘が刻まれています。逆修(生前に死後の冥福を祈ること)を目的につくられたと考えられています。市指定文化財です。

〔大字上音羽〕

溝咋神社



古事記や日本書紀に伝わる玉櫛媛命・五十鈴媛命を祀っている神社です。

〔五十鈴町〕

総持寺



西国第22番札所として巡礼者でにぎわっています。毎年4月18日には「庖丁式」が行われます。本堂を含む建造物9棟が市指定文化財です。〔総持寺一丁目〕

総持寺瓦窯跡



室町時代後期のものとみられ、当時の形状をそのまま残している貴重な瓦窯跡です。市指定文化財です。

〔総持寺一丁目〕

国史跡 郡山宿本陣（樁の本陣）



江戸時代の参勤交代の時に大名が宿泊・休憩したところで、かつて正門わきの樁がみごとに花を咲かせたことから、“樁の本陣”とも呼ばれています。〔宿川原町〕

市の歴史の足跡をたどって

茨木の歴史

茨木市域に人々の活動のあとがうかがえるのは、今から1万5千年以上も前の旧石器時代。つづく縄文時代の後半や弥生時代には、多くの人々が生活し、その痕跡が残されています。なかでも東奈良遺跡から発見された銅鐸の鋳型は有名です。

また、古墳時代の前期から終わりごろまでの各時期の古墳が数多く残されています。

奈良時代・平安時代には、都と難波地域や西国を結ぶ重要な路線が市域を走り、室町時代には、本市繁栄の基礎となる茨木城が築かれたと考えられています。

江戸時代になると参勤交代などで大名らが郡山宿本陣（樁の本陣）を宿泊や休憩に利用しました。今も、西国街道沿いに建つ本陣は、往時の面影を残しています。

本市は、明治4年（1871年）に、廃藩置県により大阪府の管轄となり、後の郡制の実施で、明治31年（1898年）、三島郡に属しました。

この年の10月、茨木村は茨木町となり、その中心地として栄えました。

昭和23年（1948年）1月、茨木町・春日村・三島村・玉櫛村の1町3村が合併し、茨木市は誕生しました。その後、8か村の合併、編入を経て、現在に至っています。

しほんちゃくしやく たいしゅうかん ざむ 【紙本著色 大織冠像】



藤原鎌足は大化の改新の前に、「三島別業（現在の摂津三島地域にあったとされる別荘のこと）」に退去していたといわれます。

本図は安威地域における鎌足信仰を裏付ける江戸時代の作品です。地福寺によって守り伝えられてきました。市指定文化財です。

〔大字桑原〕

どうたく いがた 【銅鐸の鋳型】

昭和49年（1974年）に東奈良遺跡から出土。考古学的に貴重な遺物として、全国的に話題を呼びました。国の重要文化財です。

〔文化財資料館〕



忍頂寺（寿命院）



かつては仁和寺の直末寺で浄土信仰の修行の場となっていました。ここには、元亨元年（1321年）7月15日の銘が刻まれた、府指定文化財の五輪塔があります。

〔大字忍頂寺〕

権内水路（深山水路）



江戸時代、庄屋畑中権内が独力でつくったとされる水路。かつては数多くの水車が回り、車作の田を潤しただけでなく、飲料水の源でもありました。

〔大字車作〕



じゅうご げんぎず 【マリア十五玄義図】

千提寺と下音羽では、大正時代にキリシタン遺物が次々と発見されました。本図も千提寺の旧家で隠されてきたものです。府指定文化財です。〔大字千提寺〕

「次なる茨木」に向けたまちづくり

令和6年12月現在



まちづくり



文化・子育て複合施設 おにクル

日々何かが起こり、誰かと出会う施設

おにクルは、ホールや図書館、子育て支援、プラネタリウム、市民活動センターなどさまざまな機能を備えた7階建ての複合施設です。建物前面に広がる芝生広場のほか、施設全体に植栽を配置するなど豊かな緑が特徴です。

また、図書館と子育て支援のコラボレーションなど、複合施設の特徴を生かした取り組みを行っているほか、施設エントランス等で市民の皆さんによる活動が活発に展開されているなど、常にいろいろな発見や出会いがある施設となっています。

※施設の紹介は6～7ページ参照

名前の「おにクル」は、市内在住の当時6歳のこどもが、まちでよく目にする鬼のキャラクター「いばらき童子」を見て、「怖い鬼さんも楽しそうで来なくなっちゃう場所」という意味を込めて命名。



ひと中心のまちづくり

まちの魅力をつなぐ2つのメインストリート

にぎわいをまちなか全体に拡げるため、東西に延びる2つのメインストリート（中央通り・東西通り）を歩きやすく、歩きたくなるような空間づくりを進めています。人と人、活動と活動をつなぎ、交流やにぎわいを広げていきます。

元茨木川緑地リ・デザイン

老木や老朽化した施設を更新するだけでなく、滞在できる憩いの場に「リ・デザイン」する取組を進めており、イベントなどでも活用されます。

※詳細は20ページ参照



令和5年11月にまちの中心部に誕生した市の新たなランドマーク「おにクル」。
 さまざまな取組を重ねながらつくり上げてきた、『育てる広場』がキーコンセプトの複合施設です。
 また、市北部地域「いばきた」でも魅力的な場づくりに取り組むなど、「次なる茨木」に向けたまちづくりが進んでいます。



まちづくり

● ダムパークいばきた

自然環境と調和した都市公園

安威川ダム周辺の自然環境と調和した都市公園「ダムパークいばきた」には、パークセンター、芝生広場、ステージ、ドックランなどがあり、イベントが行いやすい環境を整えたことで、さまざまな用途で使われています。令和7年春には長さ日本一の吊り橋も完成予定です。さらにスポーツ、飲食、湖面でのウォーターアクティビティなどが楽しめる、ダム湖畔ならではの魅力的な公園の整備を進めています。

まち半分、山半分の茨木の「山とまちをつなぐハブ拠点」として、多様な形で地域と関わりを持つ場となることで市北部地域の活性化をめざします。

※施設の紹介は8ページ参照

安威川ダムは、100年に一度（時間雨量80mm、日雨量247mm）の大雨から市街地を守るために、令和5年9月に本格運用を開始しました。



■ いばきた

豊かな自然や美しい棚田の風景が広がる北部地域、通称「いばきた」には、地元産の新鮮な野菜などを販売している「de愛・ほっこり見山の郷」や宿泊もできる「忍頂寺スポーツ公園・竜王山荘」があります。また、サイクリングやハイキングのコースとしても人気があります。

■ 彩都

人と自然の調和を基本に、さまざまなニーズに対応したまちづくりが進められています。また、住宅だけでなく、企業誘致も進められ、施設見学が可能な企業も立地しています。